



瞱（なわ）ドラ
四條瞱学園 100年目のストーリー

VOL.3
〈次の100年を巡る〝挑戦状〟〉
オムニバスで綴る―「舞い上がれ！ワンダフル ワールド！」

ナ ンテステキな距離感でしょう。
―生徒会 副会長Hの楽園日記―

一日一日胸躍る、学園モノ映画の登場人物になったような。それぞれの場面が、心温かくて、それでいて新鮮な感じ。意識して演じているわけじゃなく、すごく自然にそういう日常の〝私たち〟が出来上がっている。授業中に突如としてダジャレを連発し始めるS先生。
「え!?何が起こってるの?」でも面白い、面白過ぎる、クラス中、笑いの波紋が広がり、ついに爆笑教室！でもね、ちゃんとダジャレが授業内容のキーワードに着地している、不思議なまでに…
先生は〝個性豊か〟の上をゆく―
負けず劣らずY先生も秀逸だ。修学旅行のバスの中で、本物のバスガイドも逃げ出しそうな見事なガイドぶりを披露する、遊びゴコロに本気も交じる天然なのか、ネタなのか。この突き抜けた印象こそ、先生と生徒の間の無駄な壁を取っ払うヒミツの力なのかも…
文化祭の提案ごとから、日々の小さな相談ごと、もちろん進路のお話や、果ては恋愛の相談まで。色んなことに、生徒の思いの上をゆく好ましい反応を返してくださる先生方。はい、そこがNAWAGAKU、この素晴らしきココロとココロのディスタンス。

ワ クワクする、って基本でしょう。
―教頭先生の、感動紡ぐ日記―

「料理人になるぞ！」って君、何故？そう来るか、とオドロキのハードルをポンと越えてしまう一言。自分の作ったパスタを食べて「おいしい！」と納得してくれる人の満たされた表情を毎日見ていたい…
そんなお店をやってみたい…ある意味、限りなくロマンティストだ。
近未来にしろ、少し遠い未来にしろ、計算があるにしろ、ないにしろ、その日その日をときめきながら沢山のトライアルを重ねてみることが、夢に向かうための素晴らしきエクササイズ。
また、**「大好きな写真を仕事にできたら」**、という声。自らはどんな世界に傾倒していて、どんな生き方をしたいのか。現実と非現実の境目は、予めきまってるわけじゃなく、模索しながら一人一人が定めてゆくものだろうから。ワクワクするって、きっとそういうことでしょう？
そして、**「この学園の先生になりたいなぁ」**。実は学園中学校教員の約3分の1が卒業生。恩師と言うか先生に憧れるというシチュエーションそのものがこの時代においてはかなりドラマティックなのだけれど。
本物の学園の姿、人と人はやはりそんな風に美しいシナリオのもとに繋がっていくものじゃないだろうか。
私はいつも、刺激的でいて優しさに溢れたボイスに囲まれている。

ガ 然、テクノロジー、でもヒューマニティーでしょう。
―教員Nと生徒会 会長Kが明日を探究―

教員N「昨今、世の中的には、対話の質を高めたり広げたりするデータのやり取りや、人・物・情報を繋ぐ役割を担うテクノロジーに期待が集まっているね。たとえば、ICT（インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー）は意思疎通のレベルを多面多彩に高め広げた機能。ICTを土台にしたご存じAIは、人工知能により何から何までカバーをめざす超便利機能です。」
生徒会長K「そこで〝私たち〟がこれからの時代、という構図の中でどんな風に対応していったらよいのか、ということなんですが。」
教員N「目標としてる世界観が思ったより簡単に形作れてしまいそうになっている反面、どんどん予測不能な時代へと突き進んでいる感じもある今、まさに学園中学校の3年間はその鍵で、適応したり超越するために進化する最も良い環境なのかも…
何だか難しいこと、言ってる？私？」
生徒会長K「いえ、この環境、たしかにいちばんですよね。自由に語り合えるのが当学園風。その〝風〟、ほんとにいい風で、気持ちのよいガーデンに流れてる、そんな空気…それが既知にとらわれないモノの見方を後押してくれているように思います。」
教員N「そこから新しい探究心が芽吹き、育つので。たくさん試してみて、体験してみるのがテクノロジーに左右されないシナヤカな生き方のための道標なんだろうね…」
生徒会長K「はい。とは言え、道具自体がどんどん進化していくのも自然なことなのかなと。」
教員N「もちろん。ただ〝人〟が支点の未来であることは不変だよ、きっと。」

ク ロスする、それは〝あの頃〟と〝この頃〟でしょう。
―生徒会 副会長Iと、想い思いの学園散歩―

ワタシの読書知識によると、過去とか未来という意識を持つ生きものは人間だけ。ほんとは現在があるだけというヒトも居るのだけれど…
とりあえず、解けない謎は置いておき、現実家のワタシは何とか解けそうな謎にだけ光をあててみようと思う。学園のある情熱家曰く「自分は中学生の頃、きらきらした世界で活躍したかった…」。きらきらした世界、ってどんなステージなのだろう？演劇人とか歌い手とかじゃなくって？
気持ちがきらきら…ふむふむ…行動力がきらきら…なるほど、ちょっと分かってきたぞ。国際線のパイロット。外国航路の船の船長。近い？
または海外を飛び回る商社マン。ピンポン！そして、学園のある韋駄天（サッカーこそ青春！）曰く「中学生の頃は、面白い発想ができる大人になりたかった…」。それは漫才師、いやいや、手品師、占い師。全然違う？
どこぞの業界の大立者（おおだてもの）？イメージ合ってきた？でもムリ、降参。実は、スポーツ繋がり。選手を飛び越えて、寧（むし）ろ監督とかGMに憧れ、卓越した理論でチームを導く、そんな存在が理想像だった、とのこと。
なるほど、構想の達人、みたいで楽し気に見える。
お二人は、ワタシの敬愛する理科の先生と学年主任の先生。大きな世界に憧れを抱く時代だった〝あの頃〟、でも今ほど成ってよかったと思えることはない、と。この学園の教員という存在は、教える、だけじゃなく、教えられる機会にも恵まれた特別なものだ、と。
ここは色々素敵な想いや思いとお散歩できる場所です。

ダ イナミックな空港（エアポート）、ときには母港（ホームポート）でしょう。
―次を拓（ひら）く、〝私たち〟の視点―

飛び立つためには助走が要る。その先の場面を想像する、または創造する力は、心の港（ポート）に蓄積されていく―
胸の中には未だ見ぬ空が、広い海が横たわっているはず。傍目には小さな希望と感じても、見果てぬ希望と感じても、その先を信じられるスピリットさえ確かならば、どんな道にも手繰り寄せる価値は生まれるもの。
「人をつくる、って、どういう意味だろうね」。校長先生は安易に答えを語らない。母なる学園で何かを見つけ、出会いをかさね、何かに続く自らの風景を描き出せる、素晴らしきチャレンジを見つめている。
「失敗するとか、成功するとか、こだわるところはそこじゃない」と。
一人一人のチャレンジャーに行き渡る自由な人間力、
それがナ・ワ・ガ・ク・ダ。

学ぶ喜びをずっと。
100TH
SHIJONAWATE GAKUEN Since1926

四條瞱学園中学校
〒574-0001 大阪府大東市学園町6番45号　TEL 072-876-1321（代表）072-876-2120（直通）/ FAX 072-863-2875
https://jh.shijonawate-gakuen.ac.jp/lp/3years/